

第7期第7回豊中市文化芸術振興審議会

日 時 令和2年(2020年)7月29日(水)午前10時~11時45分

会 場 豊中市立文化芸術センター 練習室2

委 員 委員:橋爪(会長)、藤野、安藤、上田、大梶、高木、永田

欠席:原、山下

※敬称略

事務局 長坂、玉富、本山、西岡、原田、川南、眞田(豊中市)

江藤、飯塚(地域計画建築研究所)

傍聴者 なし

事務局○(事務局紹介)

[開会]

事務局○(配布資料説明)当日資料として、創造都市ネットワーク日本(CCNJ)ウェブサイトに掲載されている、新型コロナウイルス感染症に対する文化芸術活動への自治体の支援情報を印刷して配布している。

(前回の振り返りと議事録の確定)

事務局○(参考資料1に基づき、第6回の振り返りと議事録の確定について説明)

○(仮称)子どもアートフェスティバルは来年3月に延期となった。

(今後の審議会スケジュール)

事務局○(参考資料2に基づき、スケジュールを説明)

○本日の7月の審議会では4つの議題を審議いただく。また、議題の1と2については本日の議論をふまえ、メール等で引き続きやりとりさせていただきたい。そして、9月に本審議会の改選を行い、その後第8期第1回審議会を開催し、ご意見をいただいて調整を行った後、12月に答申、校正作業等を経て3月に策定したい。

1.(仮称)豊中市文化芸術推進基本計画の策定について

事務局○(資料1に基づき説明)

○7年計画だが、「With コロナ」について計画に盛り込むべきかについても、ご意見をいただきたい。

委 員○1ページについては、文化芸術振興基本法を文化芸術基本法に改正したことを、正確に表現したほうが良い。

○11 ページで戦略を3点あげているが、3点目の市民ホールの活用と発信が見えづらい。市が直接実施しているものや委託しているものは記載があるが、市として幅広く取り組んでいるのは文化芸術センターの取り組みだ。指定管理ではあるが、この3点目があがっているのなら、豊中市として取り組んでいることを事例として含めてはどうか。

○この審議会には指定管理の方が参加されていない。文化振興財団がある自治体の場合、審議会委員に文化財団の専務理事が参加したり、オブザーバーで参加したりしており、相互にコミュニケーションができています。しかし、豊中市では指定管理者が頑張って取り組んできた成果が報告されないため、審議会委員にも見えづらい。市のお金で取り組んでいることを考えると、参加していただき報告してもらうべきではないか。

事務局○市民ホールの活用と発信については10ページに記載しているが、おっしゃるように、具体的な事例の掲載がない。豊中市ならではの特徴的な事業も実施しているため掲載したい。

○審議会での報告については、確かに対応できていない。チラシ等は配布しているが、事務局から報告するようにする。

事務局○審議会に指定管理者が参加するかどうかは別にして、指定管理者が実施してきた事業を審議会でも報告できていなかった。文化芸術センターの取り組みについては、フィードバックしていくようにする。

委員○フィードバックだけでなく、これから新たな計画ができることを考えると、指定管理者がその基本理念等を理解して取り組んでもらう必要がある。

○大阪府市の会議では、府市で取り組んでいる事業として、日本センチュリー交響楽団の事例が上がってくる。しかし、実際には皮肉なことに大阪府市からは助成金等が出ておらず、アンフェアだと思う。逆に豊中市は謙虚過ぎる。良いことをしているのに見せていない。

委員○コロナの話をしたい。京都市や九州、大阪府市はアーツカウンシルが、いち早く調査を行った。それぞれの都市で文化芸術の担い手がどういう状態にあるかを調査することは大切だ。調査結果を集約・分析し、今後の取り組みを検討する話もある。コロナ以降の取り組みを記載するのであれば、調査を行ってはどうか。

○私が代表を務める団体では宿泊業をしているが、コロナ感染者が出た。コロナという未知なものに対して、人とのつながりを大切にして安心を高めるための声掛けや、一人ひとりの生活や心の免疫力を上げるために、文化の担い手として、文化芸術の役割や力を問い直し、提示することは大事であり、他の分野ではできないことだ。今だからこそ打ち出していきたい。

委員○今の時点で具体的な事業や施策をどうするかを示すことは難しい。現在、オーケストラも再開しているが、大阪府内の感染者も増えている。ワクチンが開発されれば安心かもしれないが、それまでは様子見で予断を許さない。ネット配信の動画ばかりでは物足りなさもあるが、仕方がないとも思っており、動画でできることの中にも面白いことがある。ただし、動画から全てが始まるとは思いたくない。

○大学生は、大学が始まっても遠隔での授業となっており、実家にこもっている人が多い。友達とも繋がらず、人生の目標が見いだせない学生が多い。また、就活をしていても見通しが立たず、うつ状態になっている学生もいる。大学生は将来に対して希望を見いだせておらず、その割合が増えている。

○老人の孤独死についても、つながりががないためひとりで亡くなっている。学生も高齢者も、目標を見失ってしまうことが大きな問題だ。私達は医療関係者ではないた

め、命を救うことはできないが、生き抜く力を手助けすることはできるだろう。何か目標をとともに設定し、そこに向かってやっていくことが大切だ。目標を持てるような役割として文化があり、その先に希望があるだろう。

○アフリカではエイズやマラリアに感染した時、治療をしても無駄だと、治療せずに死んでしまう人がいる。寿命の最後まで生きるという目標を持ってない人、そういう環境が与えられていない人が世界中にたくさんいる。そこを文化芸術の力で取り組まないといけない。社会包摂が取り上げられるが、精神的な拠り所であって、人が生きていく力、レジリエンス、立ち直るための目標を提示するのが芸術文化の力だ。医療関係者と同じくらい、私達は重要な役割があると思っている。

○市の財政が今後厳しくなり、不要不急と思われるがちな文化芸術への風当たりは強くなると思うが、文化芸術がなければ今後さらに損害が大きくなるだろう。予算も内向きにならないよう、まずはミッションから記載し、ガイドラインに基づきながらどう展開するのかを二段構えで主張してはどうか。

委員 ○コロナの中で、私達は大阪府の指針を見ながら行動しているが、豊中市としてコロナに対する具体的な指針を出してもらえると動きやすい。市の文化芸術連盟には12団体あるが、各団体で行動したいという話があり、豊中市としてここまでは良い、どこの会場はこうすれば使えるというガイドラインがあれば、各団体も練習等で動きやすい。

○稽古や練習をする場所がないことが問題だ。来月に演奏会をしても良いと言われても、稽古をする場所がない。最低でも、半年前からは稽古しなければならないため、現時点では来年5月までスケジュールを延期している状況だ。稽古ができなければ力が入らない。疑心暗鬼になっており、グループの中でひとりでも感染者が出たらと考えると、誰が責任を取るのか。とてももどかしい。市としての考え方を示してほしい。

事務局 ○おっしゃることはわかるが、国や大阪府の基準があり、各市町村はそれにならう必要があるため、豊中市として独自の基準を示すことは難しい。ここ（練習室2）は空調も効いており、定員46名の半分で利用しているが、空調が弱い会場はさらに少ない人数での利用をお願いしている。

○国や大阪府は定員の1/2以内と言っているが、豊中市が緩和して2/3まで認めるというのは難しい。例えば、伝統芸能館は換気の関係で定員も半分以下にしており、練習場所として厳しいことは理解しているが、ご理解いただきたい。

事務局 ○補足だが、豊中市が主催するイベントについては、検温等のコロナ感染対策防止びかかるマニュアルがある。これを応用し、お祭り等の地域のイベントで使用可能なチェックリストは公表している。それを参考にしてもらいたい。国の基準に則り、細かい所については豊中市で検討したものだ。

委員 ○コロナが心配で、私達の大学も4月から全ての授業をオンラインで実施している。学会関係は中止、または6月以降はオンライン等で始まっている。初めは慣れないのでわからなかったが、やってみると画面の中で共有できることもあり、異なるインターフェイスや空間ができる。学生たちとの交流に重点を置いてZOOM等を利用すると、独特のインターフェイスが生まれる。これは学生の好奇心を向上させるこ

とつながるのではないか。学生の中には、顔を出したくない人もいるが、案外オンラインは受け入れられており、学習効果が必ずしも落ちているとは思えない。

○文化芸術についても、オンラインに切り替えるだけでなく、デジタル化での新たな表現があるかもしれない。これまでとは違う表現になるが、新しいパフォーマンスのあり方を模索できそうだ。コロナ禍では、デジタル空間の中にどのように文化芸術を乗せていくかという理念や技術も重要だ。実践する試みをしていっても良いのではないか。

○学内ではデジタル化が進んだが、コロナが終わっても元に戻らないのではないか。デジタル化は楽だ。人間は楽な方に進むため、コロナが終わってもデジタル化は残るだろう。一方、大事なものが失われるだろう。例えば身体性を大事にすることも必要だ。豊中市もリアルの重要性も入れながら、実験的な取り組みを進めてもらいたい。

委員○世の中にはデジタルに疎い人や、エッセンシャルワーカーとして対面で取り組む仕事の方もいる。大学生も授業はデジタル化できるかもしれないが、アルバイトしなければ大学に行けない人もいる。

○デジタルは有効だが、そういう技術や環境にない方については、アクセスできるようにすることや、代わりに誰かにアクセスしてもらえようサポートするコミュニティが必要だ。その際には調査・分析を行い、推進することが重要で、どんなことがあれば良いかを吸い上げる等、多段階の取り組みが必要だ。

委員○子ども二人が小学生だ。大学はオンラインということだが、子どもたちは毎日学校へ行っている。昨年度は40人クラスだったが、今年度からは32人クラスで、1クラス増えた。

○PCがない家庭もあり、子どもだけでオンライン授業を受けることは無理なため、誰かがサポートする必要がある。また、共働きの家庭については、子どもだけが家にいる状態もあった。文化芸術の力を信じたいが、そういうところにどう届けるか。

○自粛中に、小学校低学年も含め、親が働いている子どもたちが、校区外の大きな公園に集まり、夕方まで過ごしているのを度々目撃し、その時にもサポートの必要性を感じたが、そのような状況の家庭においてオンラインを活用してもらうには、どのようなサポートをしていけば良いのか、課題であると思う。

委員○大阪音楽大学はパフォーマンス中心の授業が多い。座学はオンラインだが、実技については6月から対面授業を開始している。換気は必須、パネルを用意し、個人レッスンから現在はアンサンブルレッスンを実験的に実施している。また、実技試験があるため、アンサンブル用の練習室の細かい使用ルールを決めて、カギと一緒に消毒液を渡す等の対応をしている。

○音を出す方々に対して、私達の経験の蓄積を提供できるのではないか。

会長○新型コロナウイルスへの対応に関しては、短期的な認識としては危機管理が大前提だが、いっばうで文化の振興とどう両立させるか。局地的な災害や疫病なら周辺から支援をもらえるが、世界中がコロナ感染症と戦っているパンデミックであり、通常の災害とは異なる。経済とあわせて文化も回す必要がある。

○中長期的には、新しい生活様式、ニューノーマルにおいて、文化芸術との関わり方

も変わるだろう。7年先を見据えた計画ではどうしていくのか。具体的には、冒頭で国の動向等、文化庁の方向性を短期的に書くしかないのではないか。中長期的な施策は国も出せていない。まずは足元の動向を記載することになるだろう。

- 事業計画では、新しい生活様式への対応について、具体的に記載することになる。他部局と連携して取り組むこととして、IT化等も入れればいいのではないか。
- 別途、計画の最後に付けたりの記事として、審議会から市に対して、新しい生活様式への対応に関する要望などを付ける方法もあるが、そこに何を書くかは慎重に審議したい。足元の話は間に合わないが、中長期としてどう取り組むか。次回までに国の考え方も新しい情報も出るだろう。
- 個人的な考えとしては、新しいリモート等の文化発信というのは、新しい媒体ができてきているということだ。昔は高齢者世代ではテレビもなく、もっと前は映画もなかった。時代とともに新しい媒体が生まれ、戦前だと海外の著名な演奏を聞くことは一生に一度くらいだったが、今はインターネットで世界中のものに触れることができる。これは5年前、10年前とも異なる生活様式で生きているということだ。子どもたちはパソコンが当たり前の生活だ。行政としては、そこから生まれるコンテンツをどう創造するかが重要だ。そうした分野において公平性が担保できるようにすることが大切であり、アクセスできない方への支援は必要だ。コロナが生み出す新しい生活様式に対して、行政としてどういう支援をするのか、またどう環境をつくるのかを計画に盛り込むか、盛り込めないなら別文章で計画に付けることを考えたい。
- 言葉の使い方で、「市民ホール」と「市民ホール等」などの表現がある。豊中における「市民ホール」、もしくは「市民ホール等」とは複数の施設を指す場合に用いられる。ただ他の自治体では、市民ホールは1つしかない場合も多いだろう。豊中市民以外の人が見た時に理解しづらい。ここでいう「市民ホール」がどの施設を指すのかを、注ででも明らかに記載するほうが良い。
- 現行計画と新しい計画がどう異なるかを明確にすべきだ。現行計画では、この文化芸術センターの整備が一番重要だったが、文化芸術センターもできた中で、新しい計画では何を重点化するのか。文化芸術を広めていくこと、特に南部地域に重点的に取り組むのか、現行計画はハード重視だったが、新しい計画ではソフト重視でいく等を前段に記載したほうが良い。
- ガイドラインについては、私が副会長になっている団体でも、独自の要望書を経済産業省に提出した。MICEのガイドラインは政府の担当よりも早く大阪観光局が示しており、国が後発だった場合もある。国や大阪府が創るのを待っている場合でもない。豊中市としては、国や大阪府よりも緩い規程を示すことは難しいが、豊中市として自前のガイドラインがあると、市民としてはわかりやすい。
- 新型コロナウイルスへの対応は、前例のない特殊な案件ではあるが、その本質は、市民の安心・安全に関わる話である。文化芸術における安心・安全の考え方として、考え方を記載してゆくこともあって良い。10年後には別のパンデミックがあるかもしれない。今回のコロナ対応では、文化芸術の危機管理が問われているように思う。

委員○今は新型コロナだが、10年後には新型コロナや水害が発生するかもしれない、地震もあり得る。もしかすると、災害と文化芸術で1章を立てる必要があるかもしれない。災害があるから文化芸術を我慢しなければならないのではなく、レジリエンス・生きる力として文化芸術がある。災害があるからこそ、文化芸術は発信されなければならない。災害と文化芸術という項目で1章書いても良いのではないか。

会長○京都市等では、コミュニティが重要だという話が出ており、コミュニティがレジリエンス強化につながると言われている。その中でも文化芸術が役割を果たしている。

事務局○豊中市では、そのような計画等は今までなかった。

会長○防災ではなく、発災の後にどう取り組むか。その時にコミュニティが大切になる。

○地震などではその後がわかるが、今回は時間軸がわからない。長く続きそうなものであり、全員が被災者である。

2. 文化芸術推進プラン改訂版に基づく施策実施状況について

事務局○（資料2に基づき説明）

○プログラムごとのご意見をいただきたい。なお、3ページの指標については、事業の満足度を追加している。34ページから事業内容の一覧を掲載している。

○本日すぐにご意見を言うていただくことは難しいため、メールでご意見をいただきたい。

3. 文化芸術活動支援助成金について

事務局○（資料3-1、3-2に基づき説明）

○対象事業については、動画以外の展示やワークショップも対象とした。

会長○審査をどうするのか教えて欲しい。

事務局○当助成金は今年度限りを想定している。また、当助成金は制度設計当初、動画作品をメインに考えていたため、メディアアート専門の原委員、アートと地域をメイン分野とされている山下委員に入っていただきたいと考えている。審査は非公開とさせていただきたい。

会長○いろいろな方に伝わるようにしてもらいたい。

事務局○現在、21件きている。

委員○対象者として「1年以上の文化芸術活動の実績があり、出演料やチケット収入などの文化芸術活動に関わる収入があること」とあるが、日本におけるアーティストについて、プロとアマチュアの違いはなにか。プロで生計を立てている人はどのくらいいるのか。スタッフは専門の人が多いが、舞台に立っている人は副業をしていることが多い実態が見えてきた。助成対象者をどのような基準で線引きするかは難しいが、この書き方は工夫されており、プロとは言えない、食べてはいないが、出演料をもらっており、プロとしてやっていきたい意欲がある人を対象にしたように見える。また、1年以上という線引きの意味は何か。

事務局○一定期間の活動実績を求めないと、ここ数週間しか活動していない人も対象になってしまう恐れがあるため、一定期間を1年と定めた。

委員○自分が関わっている枚方市でも、同様の事業を5月から開始したが、動画を見ると、枚方市出身でハンブルグ大学へ留学している方が、ドイツの状況や曲の解説をしながら、30分の堂々たるリサイタルを行っていた。素晴らしい技術を持っているが、その人は現在枚方市に住んでいる訳でもなく、チケット収入を得ているとは思えない。しかし、枚方市出身の素晴らしい方がいらっしゃることはわかる。そうした個別事例を考えると、基本はこの内容で良いが、例外は認めても良いのではないか。例えばチケット収入を得ていない学生であっても伸びしろがあるなら対象にしても良いのではないか。

委員○再三調査して欲しいと言っているのは、私も豊中市に住んでいれば応募できると思うが、動画撮影などの技術がない。そして、動画撮影などのスタッフ等は仕事がないということが、調査結果からもわかっている。そこでそうしたスタッフが、事前にワークショップ等を展開するようなことができると良い。「スマホで撮れるよね」という方もいるが、高齢者等はサポートも必要で、専門家の仕事に結びつけることができたのではないか。

会長○大阪音楽大学の学生も応募可能なのか。

事務局○学生もこの条件に当てはまれば応募できるが、収入を得ている要件は難しいのかもしれない。

委員○学生は通常、収入を得ることは禁止だ。

事務局○本来は制度を設置した段階で、説明会を開催できると良かったのだが、この助成金は、3万円までであれば人件費が認められるものであり、撮影ができない方でも専門家に依頼することができる。

○この助成金は今年度限りだが、コロナの感染状況も勘案しながら次年度も検討がしたい。

会長○総予算はいくらか。

事務局○予算は4,000千円だ。申請内容を見ると、上限額まで助成できない人もいるように思うが、できるだけ多くの方を支援したい。

4. 文化芸術振興助成金の結果について（報告）

会長○この案件については、豊中市情報公開条例第7条3項に規定する非公開の理由の1つである「公にすると率直な意見の交換もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるもの」とし、今回の助成金の報告は非公開とさせていただきます。

会長○案件4については非公開とすることでよろしいか。

（異議なし）

〔案件4. は非公開〕

〔閉会〕

（以上）